

春泥を小さき長靴闊歩する

春寒の矢切の渡しあるにはある

幼子がそっと開く掌竜の玉

初江

星ぼしや灯火管制冴え返る

一人寝の夢のかけらや春浅し

通夜の客帰りて畳の余感かな

綾子

○日溜りに忘れられたか竜の玉

春浅しオリオン西の空高く

水仙や枯草の中香りたつ

志津子

冴返る朝刊届く咳払い

塾々と日々を重ねる受験生

うららかや受験番号みつけたり

丞子

隣の子よちよち歩き春浅し

初めじろ障子に動く影三つ

木漏れ日の梅花黄連切株に

文子

冴返る朝刊届く咳払い

塾々と日々を重ねる受験生

うららかや受験番号みつけたり

瑞枝

リーダーの唯々諾々や冴返る

冬ざれや老いの嘆きで盛上り

夕日背に脚長の影日脚伸び

千代

冴返ることも語りて医師若し

目つむれば恥多き日々冴返る

笛吹きのやかん沸騰猫の恋

淨瑠璃の名のれぬ母子春浅し

余寒なほ回廊長き永平寺

蒼天に峰の残雪突き刺さる

三桿の花満開に紙の町

玉砂利の足裏に響く余寒かな

笛吹きのやかん沸騰猫の恋

淨瑠璃の名のれぬ母子春浅し

余寒なほ回廊長き永平寺

蒼天に峰の残雪突き刺さる

三桿の花満開に紙の町

玉砂利の足裏に響く余寒かな

笛吹きのやかん沸騰猫の恋

淨瑠璃の名のれぬ母子春浅し

笛吹きのやかん沸騰猫の恋

淨瑠璃の名のれぬ母子春浅し

郁子（土）

郁子（岡）



味元 昭次 作品

笛吹きのやかん沸騰猫の恋

淨瑠璃の名のれぬ母子春浅し

えり

笛吹きのやかん沸騰猫の恋

淨瑠璃の名のれぬ母子春浅し

迪子

★次回市民句会

【開催日時】

令和七年三月二十六日（水）

午後一時十五分～午後四時（予定）

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます